

最近、新聞やテレビでも度々取り上げられるようになった教育のデジタル化
公立学校の児童生徒に1人1台のタブレット端末を整備するという国の施策は
※「GIGAスクール構想」と言われています
新型コロナの影響もあって前倒しされ、今年度内にも実現することになりました。

津田中でも、夏以降、校内LANの工事に始まり、
教室の前端にはタブレット管理BOXも設置され、
土日ごとに行われていたGIGA関連工事もいよいよ大詰め、
あとは、生徒・教員が実際に授業で利用する端末の支給
を待つのみとなっています。



教室内の充電BOX

この数年、IoT(物のインターネット)、ビッグデータ、
AI(人工知能)などの革新技术が加速的に進展しています。

今後到来するSociety5.0(ソサエティ5.0)と呼ばれる新たな時代を、
いやおう
否応なく生き抜いていくことになるであろう生徒たちにとって、
タブレットは、鉛筆やノートと並ぶ存在になるに違いありません。

Society5.0
(ソサエティ5.0)
= 狩猟社会→農耕社会→
工業社会→情報社会に続
く新たな経済社会のこと



B5サイズ(キーボード、タッチペン付属)

今回のタブレット導入によって、
学校の授業や家庭での学習風景にも、
これまでにはなかった便利さや豊かさがもたらされる…
はずなのですが、正直なところ、
その具体的な活用のあり方や指導の改善については、
まだまだこれから各教科における模索が続きそうです。

しかし、用いる道具が、黒板・ノートからタブレットに変化していく中でも、
時代を越えて共通して求められるのは、

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
 - ② 科学的に思考・吟味し活用する力
 - ③ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力
- であり、それらの力を育むうえでも必要となる
各教科ならではの「見方・考え方」です。



授業の学びの中で生まれてくる生徒たちの「どうしてだろう？」を大切に、
真剣に考える時間、考えを伝え合う時間、考えを拓けていく時間を作り出していく。
タブレット端末の活用もそのための一つの手段にしていく必要があります。

いつの時代も、義務教育に求められるものは、流行の最先端を追いかけるのではなく、
学びの基盤を固めることであると、この機会に肝に銘じて進みたいと思います。